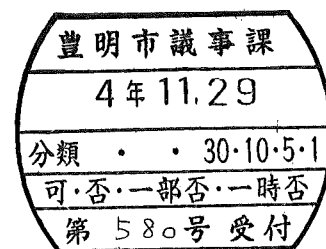


令和4年度 議会運営委員会行政視察報告書



令和4年10月28日（金） 愛知県長久手市
「議会におけるICTの活用について」

令和4年10月28日（金） 愛知県知立市
「議会におけるICTの活用について」

上記の視察項目について全委員の報告書を添付し報告とします。

議会運営委員会	委員長	近藤 ひろひで
	副委員長	中村 めぐみ
	委員	堀内 ちほ
	委員	服部 龍一
	委員	林 ゆきひろ
	委員	青木 亮
	委員	一色 美智子
	委員	近藤 善人

令和4年度 議会運営委員会視察報告書

委員長 近藤ひろひで

視察委員

委員長/近藤ひろひで・副委員長/中村めぐみ 委員/堀内ちほ
服部龍一・林ゆきひろ・青木 亮・一色美智子・近藤善人
随行：議会事務局/浅井局長
移動方法：豊明市マイクロバス

視察自治体/愛知県長久手市

【日時】 令和4年10月28日（金）10:00~12:00

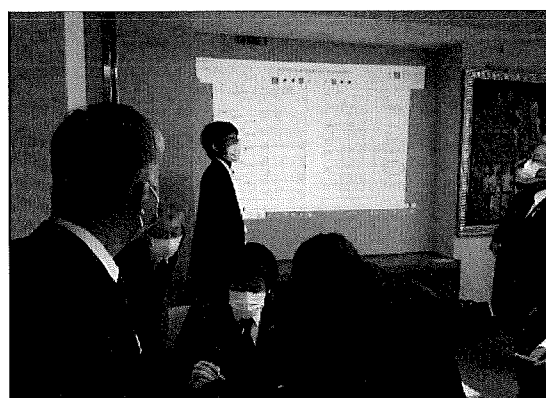
【視察内容】 「議会におけるICTの活用について」

青山なおみち議員・なかじま和代議員にレクチャー頂きました。
主な内容は下記の通りです。

□ ICT導入に向けては、複数のシステムのデモを実施して決定されたそうです。タブレット等が得意でない議員には、事務局・議員間で支援されているそうで、実際に使用している機器は5年リースで貸与されています。

紙資料の廃止については、厳しく無くす方向で進めていくことが必要であるとのこと。そして、令和5年からは完全ペーパーレスにする方向である。予算書・決算書などを含め、データ化には職員側の理解や協力が必要。

市全体のペーパーレス化やICT導入には、議会と市が同じ方向のもとでルール調整を行った。



視察自治体/愛知県知立市

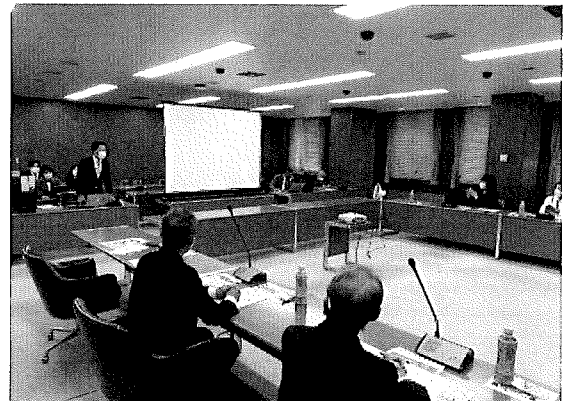
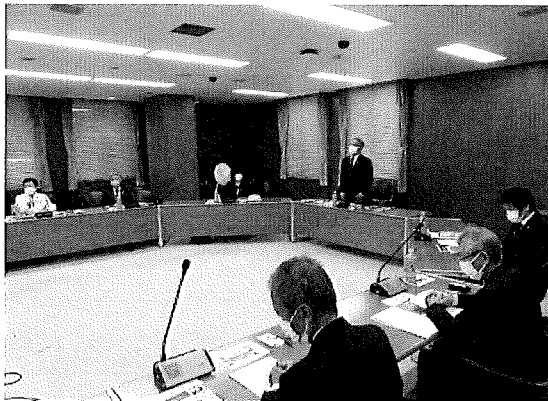
【日時】 令和4年10月28日(金) 14:00~16:00

【視察内容】 「議会におけるICTの活用について」
川合正彦議員・中野智基議長にレクチャー頂きました。
主な内容は下記の通りです。

- 以前から研究していて先進地にも複数回視察を行っていたところ、コロナ禍となり議会継続を維持する危機感が、ICT活用の後押しとなった。

機器は貸与されており、貸与機器のほかの機種も議場への持込は自由である。通信料の1/2は議員が個人で負担している。

議会報告会が年4回実施されていて、おおむね30~40人の参加があり、オンラインでの開催実績もあるそうです。その場合は市内に限らず全国から参加できます。



【所 感】

両市共、ICT活用に向けて他市への視察を重ねて調査研究をされています。ソフトの選定やタブレットの選定にあたってはデモを行い決定に至っていて、機種はリース契約をしています。

導入にあたってはパソコン操作等を苦手とする議員もいますが、議員間でICTや周辺機器に長けたメンバーが中心となって、フォローしている印象です。また当局側の理解・協力が不可欠です。

議会運営委員会視察報告書

中村 めぐみ

愛知県長久手市

1.市の概要

名古屋市東側に位置し、総面積は 21.55 km²。平成 24 年 1 月に市制を施行して現在の長久手市となる。名古屋市や豊田市に隣接する事から子育て世代の流入が多く人口増加が続いており、大規模商業施設等が相次いでオープンしている。

2.視察テーマ「議会における ICT の活用」について

- ・本格的に端末導入の検討を始めたのは、市の行政改革の重要課題事業として「ペーパーレス化の拡大」が示されたため。
- ・端末、会議システム、グループウェアの選定や比較検討は、議会内での有志チーム(事務局一任もあり)で話し合い。
- ・導入に向けて主として、議員用のわかりやすいマニュアル整備や保存サーバーのフォルダ階層の検討を行った。
- ・市当局との調整として、議案書の作り方、画面同期の方法などを行った。
- ・使用の現状は、本会議、委員会及び全員打合せ会などの資料を格納している。また、委員会審査の議案説明時は同期機能を用いて説明している。
- ・貸与品以外の PC など(許可制)も使用可能。
- ・ビデオ会議システム使用は、議会だより編集時の正副部会長チェックや、委員会の議員傍聴に活用している。
- ・条例改正により、特別な理由(感染症など)により議員の委員会オンライン参加を可能にした。
- ・グループウェア使用は、回覧・レポート、スケジュール、電子会議室、文書管理、設備予約など。
- ・電子機器の取り扱いが苦手な方もいるので、議員同士でのフォローが大切。

3.視察の所感

自分自身、機器の取り扱いが得意ではないので、理解が難しい部分もありましたが、とても勉強になりました。

議案書や予算、決算書を限りなく紙と同じに表示するため、さらに、単語検索やページジャンプ機能などを使用するためには、市当局と調整する部分が必要不可欠との認識をしました。

愛知県知立市

1.市の概要

県のほぼ中央に位置し、面積は 16.31 km²。主要な国道、県道をはじめ名鉄名古屋本線、三河線が交差し、交通の要衝となっている。江戸時代には東海道五拾三次の宿駅「池鯉鮒」として名を知られたところ。

2.視察テーマ「議会におけるICTの活用」について

- ・令和 2 年 5 月コロナ禍で書面、対面、接触のリスクを回避する中で、議論を止めない、公開を止めないために、電子化、オンライン化の必要性が再認識され、導入が進んだ。
- ・タブレット、会議システム、グループウェアの導入。議会情報通信機器運用基準や、オンライン委員会運用要綱を策定し、運用。
- ・委員会出席者が濃厚接触候補者となり、常任委員会にオンラインで出席し、質疑、採決に参加した実績あり。
- ・有事の際でも、公開、活動、議論を止めないため、有効に活用するためのプロジェクトチームの発足。
- ・単なるペーパーレスに留まらず、タブレットやクラウドなどの活用により、情報収集、情報処理、情報伝達、情報共有などの能力向上につながり、議会活動が活発になる。
- ・データを携行することで、市民への説明の際にも有効に活用できる。
- ・オンラインで会議を開くことができるため、時間、場所を問わなくなった。
- ・令和 3 年度、議会報告会を市民とオンラインで開催したり、議員は 1 箇所に集まり、市民はオンラインで参加するハイブリッド方式で開催したりした。
- ・紙資料をなくしたことで、傍聴者に配布していた参考資料がなくなった。代わりに会議資料を、ペーパーレス会議システムのタブレット画面をスクリーンに映すことを始め、これまで以上に内容が傍聴者に伝わるようになった。

3.視察の所感

議会の ICT 化といっても、ただペーパーレスにするだけではなく、情報の収集、処理、伝達、共有などの能力向上につながり、議会活動の幅が広がったり、まだまだ有効活用できる可能性を秘めているものだと思います。また、市当局や事務局や議員だけでなく、市民の方にとってもより良いものになるよう、進めていければと感じました。

2 箇所の視察でしたが、とても有意義な時間でした。本市にはどのようなものが合うのか、学んだことを活かしていきたいです。

豊明市議会運営委員会行政視察 報告書

提出者 堀内 ちほ

視察日時：令和4年10月28日

視察先：長久手市【～誰ひとり取り残さないICT化を目指して～】
：知立市 【議会におけるICTの活用について】

視察先：長久手市役所（10時～12時）

テーマ：【～誰ひとり取り残さないICT化を目指して～】

長久手市の概要

長久手市は名古屋市東側に位置し、徳川家康と豊臣秀吉が戦った小牧・長久手の戦いや、愛知万博の開催地としても知られている。

平成24年に市制を施行して現在の長久手市となる。
名古屋市、豊田市に隣接している事からも、子育て世代の流入が多く、人口増加が続いている。

長久手市人口：60,352人 内老年人口（65歳以上）：10,235人
高齢化率：17% （令和4年4月1日時点）

【内容】

長久手市議会の基本条例では、「市民にわかりやすく開かれた議会の実現と議会活動の充実を図り、市民福祉の向上と市政の発展に寄与する」と規定され、平成26年3月の定例会から、個人所有のノートパソコン等の委員会への持ち込みを認め、令和4年3月定例会からは、本会議で全議員共通のタブレット端末を活用した議会運営が開始された。

長久手市のIT化の着手はとても早く、
平成23年度には、議員控室・会派室に有線・無線LANを整備され、
平成24年度には、タブレット・ペーパーレス会議の先進地（鳥羽市議会）を視察。
平成25年度には、個人所有端末の持ち込み（委員会のみ試行）を許可。

※平成24年4月 埼玉県飯能市議会が日本で最初にタブレット端末を導入。

会議システム導入検討の経緯、時期については、
令和2年1月に市の行政改革の重要課題事業として「ペーパーレス化の拡大」が議会に示され、このスケジュールに合わせられるよう、端末導入等の検討を始められ、すべての資料を電子化し、予算書・決算書以外の紙配布の廃止。

令和5年の議会からは、分厚い予算書・決算書の紙配布も廃止し、完全ペーパーレス化を目指されている。

端末については、議会有志チームにおいて、他自治体議会で採用されている iPad Pro が良いとの方向だったものの、端末の入手困難のため、Lenovo Tab P11 を予算要望されたが、またしても、入手困難との回答があったため、選定は事務局一任とされ、事務局は議会有志チームより出た意見を踏まえ選定された。

会議システムについては、有志チームでほぼ同等性能なら安価なものでよいと、特にデモンストレーション等を行うこともなく決定。
令和3年定例会期中に試行を行い、問題もなかったため、正式導入を決定された。

議案書の作り方、画面同期の方法などについては、市当局と調整を行い、議案書の作り方については、紙を印刷しないことを前提とした議案書作りをするため、様々な工夫をされ、画面同期については、執行部の操作により行うこととし、それに向け、全庁的な事前練習会を執行部主催で行われた。

令和4年2月1日から4月23日までの会議で削減された紙の枚数は、10,064枚。

議会・執行部ともに全議案のデータ配信をはじめ、それに伴い、令和4年から予算書を含めた議案等の紙配布は終了した。議員のみ令和4年度予算書、令和3年度決算書を移行措置として冊子配布されたが、令和5年度から、議員のみに配布されていたもの全て配布しない事とされた。

今後の目指す方向性として、紙併用となった場合は、支出増、職員の負担増の二重苦となり、メリットは全くない。

議案等の差し替えが発生した際には、作業ミスが発生も想定される。

オンライン委員会についても、紙併用の場合は事務局に資料を取りに行く必要があり、オンライン委員会の本来の意義が果たせない可能性がある。

オンライン委員会開催に向け、運用に関する事項の整理をどれだけしていけるかが、今後の課題と捉えられている。

電子機器の取り扱いが苦手な方もいるため、その方をいかに議員同士でフォローしていけるかが、完全ペーパーレス化を実現するための近道ではないか・・・と考えられている。

【まとめ】

ペーパーレスを求められていた長久手市さんの取り組みが冊子となっていました、そこに掲載されていた写真が衝撃的でした。

「議会事務局の黒ひも消費量は市役所イチ」と書かれ、全課から提供された約1,000本の黒ひもと分厚い予算書の写真が。

事務局のメリットとしては、この黒いひもとじをしなくてもよくなった！と、

「約75キロ！例規集加除は地獄」と書かれた重そうな冊子の束の写真や、

「重い紙資料がなくなって議案等の台車移動はゼロに！」と書かれ、分厚い冊子が載った秤の写真、「全庁でカラーは1台！事務局を先頭に渋滞発生」と書かれたコピー機の写真

には、思わず「議会ある・ある」と納得をしました。

議会事務局側のご苦勞を感じ、同時に豊明市の事務局の苦勞も改めて知ることとなりました。

議員側のメリットとしては、

- ・その場で検索が出来る。
- ・紙だと重過ぎたので軽くて楽。
- ・市民の前で、議案を見せながら説明が出来る・・・等。

メリットを語られるまでには、執行部も猛勉強をされたり、

貸与2週間前に、サイバーセキュリティ研修をされたり、Zoomの練習、議会図書室にも関連図書を納本されたり等と、かなりの努力と頑張りが必要とのこと。

近い将来、豊明市もペーパーレス化を実現しなければ！と、強く思いました。

視察先：知立市役所 14時～16時

テーマ：【議会におけるICTの活用について】

知立市の概要

愛知県のほぼ中央部に位置する知立市は、明治4年の廃藩置県当時、知立は9か村。

以降配置分合の末、明治39年に町村が合併し、現在の市域となった。

大正時代に入ると、国道1号線の改修工事や三河鉄道・愛知電鉄（現・名鉄線）の開通などにより、西三河では岡崎に次ぐ経済・文化の中心地となり、昭和42年日本住宅公団知立団地の完成に伴い、人口の急速な増加と共に都市化が進み、昭和45年12月に市政を施行。現在は、主要な国道、県道をはじめ、名鉄名古屋本線、三河線が交差し、交通の要衝となっている。JR東海道新幹線名古屋駅より、名鉄特急に乗り換え、知立駅までは約20分。

車では、伊勢湾岸自動車道豊田南ICから約15分。

【内容】

「市民に開かれた議会」として、条例全体に、公正・公平で民主的な議会運営、情報公開や透明性、説明責任を重視することを明記されている。

議会改革としては、

平成23年4月、議会改革検討項目にICT化を明示（インターネット録画配信・LIVE中継、会議録検索システム、タブレットの導入、電子機器使用許可、文書の電子化、メール配信）。

平成24年から先進自治体9市へ視察。

平成27年からペーパーレス会議システム研修3回実施。

令和2年2月「知立市におけるタブレット端末及びスマートフォンの使用に係る運用基準」を制定し、一部の会議においてタブレット等電子機器（私物）の使用を許可。

令和2年6月、会派室のパソコンを使用し、会派代表が事務局とZoom会議を試験的に実施。全員協議会でZoom会議を体験。

令和2年8月議会のデジタル化に向けたタブレット導入決定（令和3年2月導入）。

令和3年2月情報通信端末機器タブレット、ペーパーレス会議システム、グループウェアの導入。「知立市議会情報通信機器運用基準」を策定し、3月定例会より公式の会議で電子通信機器の運用開始。議員、理事者共にペーパーレス会議が可能となった。

令和3年5月オンライン議会報告会開催。

議会報告会は、年4回、定例会ごとに開催されていたので、コロナ禍を機にオンラインでの開催を始めた。

令和4年3月試験運用を終了し、原則紙資料の配布を終了された。

紙資料を制作しなくなったことにより、これまで傍聴者に配布をされていた参考資料がなくなったため、代わりに、会議資料はペーパーレス会議システムのタブレット画面をスクリーンに映すことを始め、これまで以上に、内容が傍聴者に伝わるようになった。

令和4年9月には、委員会出席者がコロナ濃厚接触候補者となり、常任委員会にオンラインで出席し、質疑、採決に参加された。

このような経験を通じ、全員がオンラインの利便性と可能性を実感され、今後は議会運営以外にも研修や議会報告会等もICTを有効活用をされる方向性が確認され、その後の議会改革につながっている。

現在は、オンラインでの視察の受け入れ、研修の依頼にも対応され、時間・場所にとらわれない議会活動が活発に行われている。

知立市議会では、10年ほど前からICT化の議論をされてきたが、普段パソコン等を使用されない人には、その利便性がなかなか理解されず、進展がなかったが、コロナ禍が転機となり、デジタル化の有用性が認知され、知立市議会では導入が一気に進んだ。

導入の効果としては、

紙資料が減少し、紙代、印刷代、管理労務費の削減。

資料閲覧が簡単となり、労力と時間の節約。

データを携行することで市民への説明の際にも有効。

情報の送受信が迅速となり、業務の迅速性の向上。

オンライン会議を開くことが出来るため、時間・場所を問わなくなった。

【まとめ】

市民に開かれた議会を目指し、知立市議会は大きな議会改革をされました。

年4回、定例会議会ごとに議会報告会を開催されていた中、新型コロナウイルス感染防止を考えると、議会報告会をどうするか？リスクを感じながらも市民を集め、開催する議会報告会の開催には抵抗があったけれど、コロナ禍の時だからこそ、市民とつながりたい！

市民の声を聞きたい！検討されたこの問題は、オンラインが解決策となりました。

そして、この画期的な方法は、この地域では初の取り組みとなり、注目されることとなりました。

委員会出席者が、コロナ濃厚接触者となり、常任委員会にオンラインで出席し、質疑、採決に参加できたということは、今後の「議員の有り方」にも大きく影響されると思います。

子育て、介護など、家庭の事情により、登庁が難しい女性が、議員として活躍することが出来る幅が広がるのです。

議会でのICT化を成功させるためには、予算も伴うことですので、議会事務局、議会が同時に取り組まなければいけません。

データの保存方法、情報の管理など、様々な課題に対しても取り組みが必要です。

議会IT化推進専門部会の一員としても、今回の視察で、ICT化の早期導入を実現できるように検討していきたいと思っています。

議会運営委員会行政視察報告書

服部 龍一

期 間 令和4年10月28日（金）10：00～12：00

視察先 長久手市役所

長久手市議会における ICT の活用について

1. 会議システム導入検討の経緯、時期について

⇒令和2年1月に市の行政改革の重要課題事業として「ペーパーレス化の拡大」が議会に示され、端末導入等の検討を始めた。

2. 端末、会議システム、グループウェアの選定、比較検討について

⇒端末については、議会 PT（有志チーム）で選定したが入手が困難であったため、事務局において議会 PT などが出た意見を踏まえて選定した。

3. 議員間の ICT 化。システム導入への合意調整

⇒ICT 化に係る予算を議会で議決した。議会運営委員会及び議会改革特別委員会に並行して有志チームを立ち上げ、協議を進めた。

4. 仕様の現状や使用上の注意について

⇒本会議、委員会及び全員打ち合わせ等の資料を格納している。委員会審査の議案説明時においては同期機能を用いた説明を行っている。

5. 会議システム導入後の効果について

⇒資料印刷の為に印刷機を占有することがなくなった。公費を負担してまでペーパーレスの為に会議システムが必要なのは今後検証する必要がある。

6. 今後目指す方向性について

⇒オンライン委員会開催に向けて、運用に関する事項の整理をどれだけして怒るかが今後の課題である。電子機器の取り扱いが苦手な方もおり、その方をいかにフォローしていかれるかが完全ペーパーレス化を実現するための近道である。

《所感》

年間を通した紙の消費量、印刷機の使用料、また印刷、製本に係る職員の人件費等を考えれば、相当な費用の削減と考えられる。その為の有志議員の協議検討の時間は相当に掛かっている。議会 ICT 化への強い思いがあって実現したと考える。



期 間 令和4年10月28日（金）14：00～16：00

視察先 知立市役所

知立市議会における ICT の活用について

1. 会議システム導入検討の経緯、時期について

- ・平成22年12月議会改革特別委員会を設置
- ・平成25年3月議会基本条例を制定
- ・令和2年8月議会のデジタル化に向けたタブレット導入決定
- ・令和3年2月ペーパーレス会議システム導入・運用開始
- ・令和3年4月議会モニター制度開始

2..市議会のデジタル化の概要

- ・平成23年4月 議会改革検討項目に ICT 化を明示
- ・平成24年～ 先進自治体視察（流山市、取手市、鯖江市、大津市、安城市、堺市、奈良市、立川市、町田市）
- ・平成27年～ ペーパーレス会議システム研修（3回実施）
- ・令和2年2月 「知立市市議会におけるタブレット端末及びスマートフォンの仕様に係る運用基準」を制定し、一部の会議においてタブレット等電子機器（私物）の使用を許可
- ・令和2年8月 議会改革特別委員会で、タブレットの導入が決定
- ・令和3年2月 情報通信端末機器タブレットの導入、ペーパーレス会議システムの導入、グループウェアの導入
- ・令和4年9月 委員会出席者が濃厚接触者となり、常任委員会にオンラインで出席し、質疑、採決に参加した。

3.会議システム導入後の効果について

- ・全議員がオンラインの利便性と可能性を実感し、今後は議会運営以外に、研修や議会報告回答も ICT を有効活用して行っていこうという方向性が確認され、その後の改革につながっている。
- ・有事の際でも「公開を止めない」、「活動を止めない」、「議論を止めない」ために有効な手段。さらに有効に活用するためにプロジェクトチームを発足した。
⇒議会 DX 推進 PT

《所感》

議会の ICT 化は、単なるペーパーレスに留まらず、タブレットやクラウドなどの活用により、情報収集、情報処理、情報伝達、情報共有などの能力向上につながり、議会活動が活発になる。知立市議会では、10年前から ICT 化の議論をしてきたが、コロナ禍が転機となり、導入が一気に進んだ。本市議会においても早い時期に導入の必要性を実感した。



議会運営委員会 視察報告書

林 ゆきひろ

「議会における ICT の活用について」 (R4. 10. 28 視察)

1. 愛知県長久手市

① 概要

長久手市議会では、議会の ICT 活用について、平成 23 年頃から議論を行い、平成 25 年に個人所有の端末持ち込みを許可、その後、令和 2 年 2 月から、議会ペーパーレス化に向けて、有志チーム、議会 PT で検討を重ね、議会運営委員会で予算要求案を承認。令和 4 年 2 月 1 日にタブレット端末の開封式を行いました。

令和 4 年 2 月から 4 月の約 3 ヶ月間で、約 10,000 枚ほどの紙の削減ができています。また、オンライン会議は、委員会の傍聴を議員のみ会派室で行えるようにしたり、議会運営委員会の協議会等にも活用したりし、委員会に関する条例も改正して、有事の際には、委員がオンラインで参加できることも定めていました。

(システム等の導入概要)

人口：	約 60,000 人
議員定数：	18 名
平均年齢：	58.9 歳
導入時期：	令和 4 年 2 月
タブレット端末：	SurfacePro7+ (12.3 型)
ペーパーレス会議システム：	moreNOTE
グループウェア：	desknetsNEO

② 所感

長久手市議会では、令和 4 年 2 月にタブレット端末とペーパーレス会議システムを導入し、令和 4 年度予算書、令和 3 年度決算書は、移行措置として議員のみ冊子を配布するが、その後は冊子を含め、議案等の紙配布は終了することです。



長久手市議会のタブレット端末

実際にタブレット、ペーパーレス会議システムを導入すると、資料データをフォルダごとにアップしておくだけで、全員分の配布準備も必要なく、各自資料を探すことなく確認することができるので、事前準備の手間や説明も省けたとのこと。また、単語による資料検索、付箋、手書きメモの機能もあり、リアルタイムでの同時編集も活用できるので、議案の審議だけでなく、会派内での会議なども効率的に行うことができているとの説明がありました。

さらに、オンライン会議では、運用について、3市（瀬戸市、尾張旭市、長久手市）でオンライン（ZOOM）にて議員研修会を実施し、さらに運用方法を学んでいます。現在は議員による委員会の傍聴を会派室等からのオンラインで行っており、今後はオンラインによる傍聴について、一般の方向けにもできるように準備していくとのこと。

タブレット端末、ペーパーレス会議システム、オンライン会議により、作業効率が格段に上がっているとのこと、豊明市議会でも、市長部局とも話し合いながら検討すべきと感じました。

2. 愛知県知立市

① 視察概要

知立市議会では、平成23年から議会改革の検討項目に議会のICT化を明示し、その後、議会改革と並行して、議会のインターネット動画配信、会議録検索システム、大型モニター導入、電子評決システム導入など、ICT化を進めてきました。

しかし、タブレット導入やペーパーレス会議システム等は、普段あまり電子機器を使っていない議員には利便性が理解されず、議会での導入はなかなか進まなかったそうです。

そこで、コロナ禍が転機となり、デジタル化の有用性が再認知され、さまざまなICT化が進みました。有事の際に「議論を止めない」「活動を止めない」「公開を止めない」ということで、デジタル化、オンライン化の必要性が議員間で広がり、令和3年2月に「知立市議会情報通信機器運用基準」を策定し、タブレット端末や会議システムの導入が決まりました。

令和3年の3月定例会議会からペーパーレス会議を行い、1年間は試行期間として紙資料の配布も併用して実施していましたが、令和4年3月には紙資料の配布を終了したとのこと。議会報告会においても、令和3年11月には、リアルとオンラインを併用したハイブリット方式での議会報告会も開催し、オンラインでの市民の参加者は28名。若い世代の参加や、初参加の方も見られました。

(システム等の導入概要)

人口：	約72,000人
議員定数：	20名
平均年齢：	60歳
導入時期：	令和3年2月
タブレット端末：	iPadPro 12.9インチ
ペーパーレス会議システム：	SideBooks
グループウェア：	サイボウズ Office

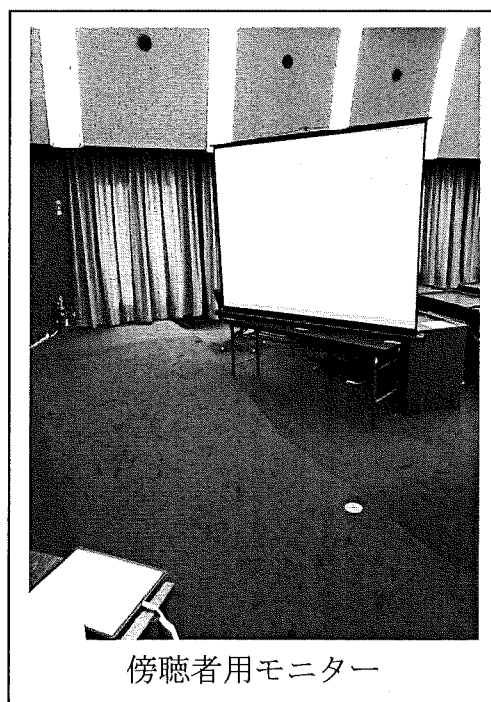
② 所感

知立市議会では、議会基本条例にある議会改革に取り組み、その上で、議会としての機能拡充と、効率性を向上させるということを徹底的に追求し、ICT化に取り組んできたとの説明がありました。例えば、議会報告会は、もともと年4回、定例会ごとに開催していましたが、コロナが拡大した際、なかなか開催できなかったが、単に中止するのではなく、有事の時こそ、市民との交流が大事と考え、オンラインによる実施を模索して、令和3年5月からオンラインで議会報告会を開催しています。

議会ICT化の効果としては、紙の削減（令和3年度で約74,000枚の紙削減）をはじめ、単語検索による資料閲覧やデータの送受信等により、各議員や事務局ともに労力と時間が短縮され、効率性が図られたとのこと。また、タブレット導入は、市民の方への説明の際にも有効で、紙資料がなくても、こういった単語で資料に入っているかわかっていれば、検索ですぐに探せることができ、タブレットを使って説明できるものでした。

最初は、抵抗のある議員もいるかもしれませんが、慣れていくしかないとの説明もあり、現状の知立市議会では、オンラインの利便性と可能性を全議員が実感しており、オンラインでの視察受け入れ、研修依頼なども行っています。時間にとらわれず、議会活動が活発に行えて、一度使ってみると、格段に利便性が向上されるのがわかり、議会ICT化がさらに進んでいきます。知立市議会では議会ICT化をより有効に進めていくため、プロジェクトチームも発足して現在も取り組んでいました。

本市においても、議員間でも説明や研修を行いながら、まず取り組んでみるのが大事だと感じました。



傍聴者用モニター

令和4年度

議会運営委員会行政視察報告書

豊明市議会議員 青木 亮

令和4年10月28日(金)

愛知県長久手市

「議会におけるICTの活用について」

令和4年10月28日(金)

愛知県知立市

「議会におけるICTの活用について」

上記の視察項目についての報告書を添付して報告とします。



愛知県長久手市



愛知県知立市

■主な視察内容

□会議システム導入検討の経緯、時期について

平成 23 年 8 月に会派室及び議員控室のネットワーク接続整備（有線&無線）が完了しているにもかかわらず、情報端末機器導入の機運が高まらない状況から、平成 26 年 2 月 1 日ペーパーレス推進のため、「議会の IT 化進めていきます」と議会だよりで市民へ周知することになり、一気に情報端末機器導入へと加速することになる。

平成 26 年 3 月定例会から個人所有のノートパソコン等の委員会持ち込みを認め、令和 4 年 3 月定例会からは、本会議で全議員共通のタブレット端末を活用した議会運営が始まった。

令和 2 年 1 月 26 日 市の行政改革の重要課題事業（第 2 弾）として「ペーパーレス化の拡大」が議会に示され、このスケジュールに合わせられるよう、端末導入等の検討を始める。 （担当課：情報課、議会事務局、行政課、財政課）			
現状	課題	改善策（例）	求める効果
年間コピー機 （リース料、保守費等）(庁舎分) 総額 4,635,110 円(H30) 年間印刷用紙購入代(庁舎分) 総額 2,923,334 円(H30) 年間プリンター代(庁舎分) 総額 1,613,650 円(H30) 年間合計(庁舎分) 総額 9,172,094 円(H30)	議会関連文書 年間の議案・一般質問（第 1 答弁資料）などで年間に本会議で配布される紙の量 A4 で 1 人あたり約 7,500 枚(約 3 箱)(議案、予算書、決算書、配布資料等)74 部作成しているので、 222 箱≒200 箱 1 箱 2,500 枚×200 箱=500,000 枚 カラー印刷も一部あるので、 @5 円としても概算 2,500,000 円	議会の ICT 化の実施 議場でのタブレットを活用したペーパーレス化（議案、予算書、決算書、例規集等）	印刷コストの削減 250 万円程度 紙資源使用の削減 A4 用紙 200 箱程度
令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
議会の ICT 化の検討、方針決定		新たな方策の実施	

□端末、会議システム、グループウェアの選定、比較検討について

端末の選定については、議会 PT（有志チーム）で検討されたが、テレワーク需要による企業の買い占めや世界的な半導体不足、それに GIGA スクール構想の余波により、予定端末（iPadPro も LenovoTabP11 も）入手調達が困難となり、令和 3 年 8 月 16 日、PT において端末選定は事務局に一任と決まり、最終的に SurfacePro7+（本体）、SurfacePro（タイプカバー）、Surface Pen（タッチペン）を導入※。

また、会議システム、グループウェアシステムは、導入端末に標準搭載※。

※ SurfacePro7+ (本体) O S : Windows10 Pro(64bit)
C P U : Intel Core i5-1135G7
メ モ リ : 8GB LPDDR4x
ストレージ : 128GB SSD
バッテリー : 最大 13.5 時間駆動
ワイヤレス : 第 4 世代移動通信システム

SurfacePro (タイプカバー) 日本語配列キー (かな印字)
バックライト搭載
トラックパッド搭載
電源不要 (本体から供給)
本体と着脱可能 (マグネット)

Surface Pen (タッチペン) 4096 段階の筆圧感知
ペン先交換可能 (固さは 3 段階)
2つのボタン搭載
Bluetooth で本体と無線通信
乾電池駆動
本体と脱着可能 (マグネット)



※ 標準搭載 JUST Government 職員の端末にインストールされているオフィス総合ソフト
more NOTE ペーパーレス会議システム (クラウド型)
desknets NEO グループウェアシステム (クラウド型)
Microsoft 365 市の全課に割り当てられているオフィスシステム (クラウド型)
主に Outlook、OneDrive、Teams を使用。
zoom ビデオ会議システム (無料版)
※会議専用の有料アカウントを 1 ライセンス契約

□導入にあたっての市当局との調整について

議案書の作り方については、ペーパーレスを前提とした議案書作りをするため、①印字のページ番号とデータ上のページ番号の一致。②検索可能な形式のデータとする。③見開き表示が最適に行えるよう統一させるなどを申し合わせ。

画面同期については、委員会審査冒頭の議案説明時において、執行部職員の操作により行うことになった。

□使用の現状について

- ①議員はタブレット、職員は自席のノート PC を議場に持ち込み活用
- ②貸与品以外の PC 等も使用できる
- ③三密対策として、議員が委員会を傍聴する場合には、ビデオ会議システム等を用いて自宅等から傍聴することで、一般傍聴者のスペースを確保
- ④条例改正により、特別な理由により議員の委員会オンライン参加を可能にした
- ⑤メールアドレスを議員に貸与し、市民等との電子データ等のやり取りを促進
- ⑥書類は提出後の利活用を視野に入れ、基本的にデータで提出

□オンライン化について

オンラインによる議会だより校正（正副部会長チェック）や3市（瀬戸市、尾張旭市、長久手市）による議員研修会を実施

□会議システムの導入後の効果について

令和3年6月1日ビデオ会議システム（zoom）導入し、ペーパーレス化の推進に努めているが、単なるペーパーレスのために会議システムが必要かは今後検証する。（令和5年の議会からは予算書・決算書の紙配布を廃止予定）

□今後の目指す方向性について

- ①オンライン委員会開催に向けて、運用に関する事項の整理をどれだけしていけるかが課題
- ②電子機器の取扱いが苦手な方もおり、その方をいかに議員同士でフォローしていけるかが完全ペーパーレス化を実現するための近道ではないか

視察の成果

～誰一人取り残さないICT化を目指して～ 議会基本条例に基づき、どこでも議会活動ができるよう、議員有志チーム（4名）による積極的なペーパーレス化の推進に向けた取り組みにより、短期間で本会議を含む全会議がペーパーレス会議へ移行したことは、目を見張るものがある。

でも、そこに至までには、議会のICT化を進めるための視察研修や議員研修会、更には「ペーパーレス化の拡大」に向けた執行部と議会との行政改革があった。

この「ペーパーレス化」については、まずは取り組み、端末の貸与に合わせて全ての資料を電子化するということであるが、「電子機器の取扱いが苦手な議員もおり、その議員をいかに議員同士でフォローしていけるかが完全ペーパーレス化を実現するための近道ではないか」との事務局の弁。

確かに、私自身も電子機器の取扱いが苦手でありますので、議会のICT化に不安もありますが、現在学校でタブレット端末を教科書代わりにして授業をしていることを思えば、ペーパーレス会議、グループウェア、ビデオ会議などを考えれば、開かれた議会として当然進むべき事業であると思います。

■主な視察内容

□会議システム導入検討の経緯、時期について

平成 23 年 4 月 議会改革検討項目に ICT 化を明示したが、本格的なデジタル化・ICT 化には 8 年を要した。

年 4 回開催してきた議会報告会は、コロナ禍でもホームページでの書面報告や会場を変更して三密を回避するなど工夫をしながら実施したが、「市民に開かれた議会」とするためにオンラインや動画配信というリモート環境整備が一気に前進し、令和 3 年 2 月 情報通信端末機器タブレットの導入、ペーパーレス会議システムの導入、グループウェアの導入となった。

また、情報通信機器の運用にあたっては、「知立市議会情報通信機器運用基準」を策定し、3 月定例会より公式の会議で電子通信機器の運用を開始し、議員、理事者共にペーパーレス会議が可能となった。1 年間は試行期間として、紙資料も配布された。さらには、5 月開催された第 35 回議会報告会をオンラインで開催（参加者は誰でも OK）し、8 月には「オンライン委員会運営要綱」の策定し、11 月第 37 回議会報告会をハイブリッド方式で開催。

令和 4 年 3 月 試験運行を終了し、原則紙資料の配布を終了。紙資料を製作しなくなったことにより、これまで傍聴者に配布していた参考資料がなくなる代わりに、会議資料をペーパーレス会議システムのタブレット画面をスクリーンに映すことにより、これまで以上に内容が傍聴者に伝わるようになった。

□使用の現状について

令和 4 年 9 月 委員会出席者がコロナ濃厚接触者となり、常任委員会にオンラインで出席し、質疑、採決に参加。

議会防災訓練と災害対策会議、議会報告会、常任委員会などのオンライン開催を通じて、全議員がオンラインの利便性と可能性を実感し、今後は議会運営以外に、研修や議会報告会等も ICT を有効活用して行っていこう、という方向性が確認された。

現在は、オンラインでの視察受け入れや、研修の依頼も行っており、時間や場所に捉われず議会活動が活発になる。有事の際でも「公開を止めない」、「活動を止めない」、「議論を止めない」ためにオンラインは有効な手段であり、さらに有効に活用するための議会 DX 推進 PT を発足した。

デジタル環境

- ・タブレット端末：iPsdPro12.9 インチ※
- ・ペーパーレス会議システム：SideBooks

- ・グループウェア：サイボウズ Office
 - ・Wi-Fi 環境：SSID ステルス機能
 - ・通信費：1/2 公費、1/2 政務活動費
- ※市議会の備品として購入し、議員に貸与
- ・Apple ペンシル、カバーも貸与
 - ・キーボード等は個人で準備

□会議システムの導入の効果について

議会の ICT 化は、単なるペーパーレスに留まらず、タブレットやクラウドなどの活用により、情報収集、情報処理、情報伝達、情報共有などの能力向上につながり、議会活動が活発になる。

また、紙資料が減少し、紙代・印刷代・管理労務費が削減でき、資料閲覧が簡単にでき、データを携行することで、市民への説明の際にも有効に活用でき、情報の送受信が迅速になり業務の迅速性が向上。何と云っても、オンラインで会議が開くことができるため、時間・場所を問わなくなったこと。

□今後の目指す方向性について

「市民に開かれた議会」として、議会報告会を定例会ごと開催し、第 2 部の意見交換会で市民の声を聴いてきたが、さらに充実させる制度として、新たに議会モニター制度、高校生議会を開催。

議会モニター制度は、議会の機能強化の一環として、市民の意見を活用し、よりよい議会運営を目指す市民参画制度の 1 つとして導入。

高校生議会は、選挙年齢の引き下げにより、政治や選挙が身近なものとなった高校生に、議会活動を体験してもらい、地方自治への関心を高めてもらうとともに、高校生の視点から広くまちづくりについての意見を聞き協議する機会を設けることを目的として開催。(市内 3 校のうち 1 校)

オンライン委員会の開催は、「新型コロナウイルス感染症対策に係る地方公共団体における議会の委員会の開催方法について」に基づき、感染症のまん延防止措置の観点等から、オンライン委員会を開催しているが、今後、重大な感染症のまん延防止措置が解除されることになれば、議会の委員会は対面方式に戻ることになると思われるが、「開かれた議会」からはオンラインは必要。

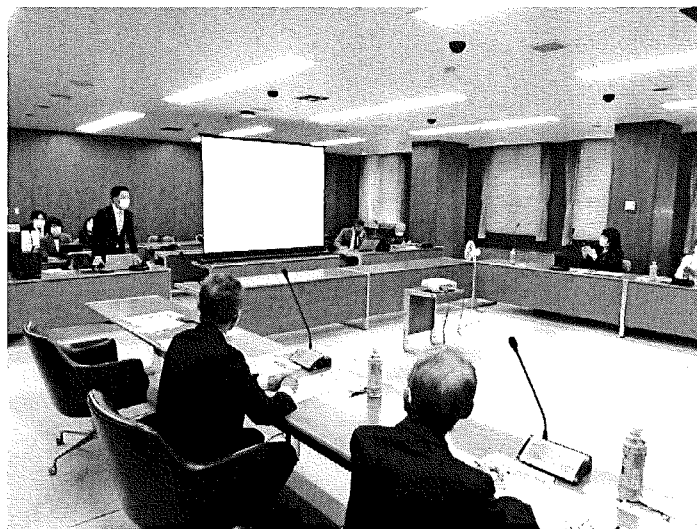
視察の成果

コロナ禍が転機となり、デジタル化の有効性が認知され、知立市議会でも導入が一気に進められた。

平成 24 年 2 月第 1 回議会報告会が開催されたときは、参加者が約 300 名と多くの市民が公聴されたことから、いかに議会活動及び議員活動に対する市民の疑問や批判があったことが伺える。

コロナの影響でホームページでの書面報告や三密回避での開催と工夫されていたが、議会基本条例に基づく開かれた議会として、「公開を止めない」、「活動を止めない」、「議論を止めない」ために、電子化・オンライン化の必要性が再認識されたことを受け、一気に市議会のデジタル化が推進されたことは、若い年長議員のリーダーシップがあったものと感じた。

本市の議会の ICT 化は、「IT 部会」で検討されていますが、全議員がデジタルの必要性を認識することから始めることが必要。そのためにも外部講師によるデジタル講習会など積極的に開催すること。また、議会だけではなく、執行部局との共同開発も必要になると感じた。



令和4年度 議会運営委員会視察報告書

一色 美智子

10月28日(金) 愛知県長久手市
「議会におけるICTの活用」について

愛知県知立市
「議会におけるICTの活用」について

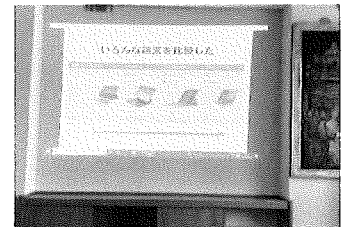
参加議員 委員長 近藤ひろひで議員・副委員長 中村めぐみ議員
堀内ちほ議員・服部龍一議員・林ゆきひろ議員
青木亮議員・近藤善人議員・一色美智子
随 行 浅井事務局長

愛知県長久手市
「議会におけるICTの活用」について

人口 約6万1千人 世帯数 約2万5千世帯
面積 約21.55km² 高齢化率 17.2%
平均年齢 40.2歳 全国1位
人口増加率 4.5% (県内3位・全国56位)



長久手市は、名古屋市東側に位置し、家康と秀吉が戦った小牧
長久手の戦いや愛知万博の開催地。
平成24年1月に市制を施行して長久手市となった。子育て世代
の流入が多く人口増加が続いている。
ジブリパークで今後も賑わっていく。



- ・ペーパーレス化検討の流れ
議員アンケートを行い協議 (有志チーム1回・議会PT2回)
協議・承認 ・議会改革特別委員会 (～R3.5.17)
・議会運営委員会 (R3.5.17～)
- ・有志チームで詳細を検討



・タブレット・会議システム等の導入（R4.2.1）

効果及び必要性について

① 紙の削減

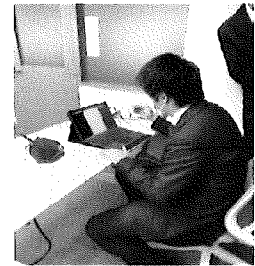
- ・紙資料の削減により書類の印刷、整理、保存にかかるコスト
労務の削減が図れる。

② 業務の効率化

- ・資料の持ち運び、検索が可能となり議会運営の効率化。

③ 迅速な情報共有

- ・災害時の安否確認等、危機管理体制の強化が図れる。
- ・庁舎外で市民への説明の際、タブレット利用により、資料を示した説明
ができ、広報広聴活動の充実が図れる。



・PT（5人）案を議運で承認！予算要求へ

・長久手市議会の特徴

- ・議員はタブレット（キーボード、タッチペン）職員は自席のノート
PCを議場に持ち込んで活用している。
- ・貸与品以外のPC等で（許可制）も使用でき、多くの資料を見るために
個人所有の端末とあわせて2台使う議員もいる。
- ・三密対策として、議員が委員会を傍聴する場合には、ビデオ会議シス
ム等を用いて自宅等から傍聴することで、一般傍聴者のスペースを確保し
ている。
- ・条例改正をし、特別な理由（感染症等）により議員の委員会オンライン
参加を可能にした。
- ・メールアドレスを議員に貸与し、市民等との電子データ等のやりとりを
促進している。
- ・書類は提出後の利活用も視野に入れ、手書きやFAXではなく、基本的
にデータで提出している。

・予算書・決算書の冊子を廃止

議会・執行部ともに、全議案のデータ配信をはじめた。それに伴い、令和
4年から予算書を含めた議案等の紙配布は終了した。

（議員のみ令和4年度予算書、令和3年度の決算書を移行措置として冊子
配布を行った。）令和5年度からは配布なし、予算計上なし。

愛知県知立市

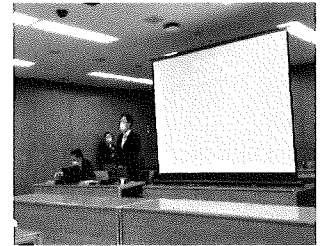
「議会におけるICTの活用」について

人口 約7万2千人 世帯数 約3万2千世帯

面積 約16.31km² 高齢化率 20.3%

平安末期三河より宮中に鯉鮒を献上したことから、地名も知鯉鮒（ちりふ）と用いられたこともあり、江戸時代は、東海道五拾三次の宿駅池鯉鮒（ちりふ）として名を知られたところ。

昭和45年12月に市制を施行、現在も交通の要衝地として発展を続けている。



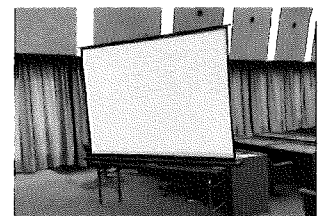
知立市議会のデジタル化について

- ・平成23年4月から議会改革検討項目にICT化を明示
- ・平成24年～先進自治体への視察
- ・平成27年～ペーパーレス会議システム研修（3回実施）
- ・平成28年10月市議会だより編集委員会における調査目的のための電子機器の使用を許可
- ・平成29年9月議員と事務局間の連絡をFAXからメールに一元化
- ・令和3年2月「知立市議会情報通信機器運用基準」を策定し、3月定例会より公式の会議で電子通信機器の運用を開始。議員、理事者共にペーパーレス会議が可能になった。1年間は試行期間として、紙資料の配布も併用し実施。



【導入の効果】

- ・紙資料が減少し、紙代・印刷代・管理労務費が削減できた。
- ・資料閲覧が簡単になり、労力と時間が節約できた。
- ・データを携帯することで、市民への説明の際にも有効に活用できた。
- ・情報の送受信が迅速になり業務の迅速化が向上した。
- ・オンラインで会議を開くことができるため、時間・場所を問わなくなった。
- ・実際にコロナ関連で委員会出席できないところをオンラインとハイブリッド実施することができた。



【オンライン視察・オンライン研修】

- ・オンラインを活用して、視察の受け入れを実施している。

- ・ 議会改革特別委員会の研修を、会津若松市議会の目黒議員を講師として招き、オンラインで研修を行った。

《まとめ》

- ・ 3年間コロナ禍で視察ができなく、今回の視察を無事終えて、本当に良かったと思いました。
- ・ 先進的な長久手市・知立市を視察して、今後本市の議会のICT化の推進について積極的に考えていかなければならない。
- ・ 直接的なペーパーレスによる経費削減はあまり期待ができませんが、事務局、執行部の事務負担の軽減、資料等の提供等、人件費から考えると、導入経費を考えても経費削減につながると思う。
- ・ 議会の積極性と合意形成が図れるかどうかの問題になってくると感じます。
- ・ 長久手市のように議会と行政の同時導入をした方が良い。
- ・ 全ての書類が入ったPC等が地域住民とのコミュニケーションの一助となり行政・議会活動の理解が得られやすくなる。
- ・ 必要な時に、必要な資料が素早く閲覧でき、議案や市政に対する調査にも活用が早くなる。
- ・ 検索機能・メモ機能で最大限利用が出来れば大きな効果が出る。
- ・ 災害時の連絡手段として、また非常時の情報共有の活用ができる。
- ・ 導入ができた時には市民からも理解が得られるように活用することが重要。
- ・ 誰ひとり取り残さないICT化を目指していきたい。
- ・ 今回の視察はとても有意義な視察でした。
- ・ 今後活かしていきたいと思います。

議会運営委員会行政視察報告書 近藤 善人

視察先：愛知県長久手市・知立市

視察日：2022年 10月 28日

視察項目：議会における ICT の取り組みについて

<長久手市>

『誰ひとり取り残さない ICT 化をめざして』

- ・平成 23 年度にネット環境を整備。
- ・24 年度にタブレット、ペーパーレス会議の先進地（鳥羽市議会）を視察。
- ・25 年度に委員会への端末の持ち込みを許可。
- ・令和 3 年 2 月にグループウェアシステムを導入。
- ・同年 8 月にペーパーレス会議システム試行を開始。
- ・令和 4 年 1 月に本格導入、同年 2 月にビデオ会議システム導入。
- ・本会議を含む全会議がペーパーレス会議になった。
- ・令和 5 年には予算書・決算書の冊子廃止により完全ペーパーレス化を達成予定としています。

会議システム導入後の効果は、資料印刷のために印刷機を占有することがなくなった。今後、一層のペーパーレス化に努めていくが、公費負担してまでペーパーレスのために会議システムが必要か検証する必要があると事務局は考えている。

<知立市>

- ・市議会のデジタル化に向け、平成 24 年に先進自治体、流山市・取手市・安城市など視察。
- ・令和 2 年 8 月議会のデジタル化に向けたタブレット導入決定し、令和 3 年 2 月に導入。
- ・令和 3 年 2 月ペーパーレス会議システム導入し、運用開始。
- ・令和 3 年 4 月会議モニター制度開始。
- ・令和 3 年 5 月オンライン議会報告会開催。

議会の ICT 化は、単なるペーパーレス化に留まらず、タブレットやクラウドなどの活用により、情報収集、情報処理情報伝達、情報共有などの能力向上につながり、議会活動が活発になる。知立市議会では、10 年前から ICT 化の議論をしてきたが、普段使っていない人にはその利便性がなかなか理解されず進まなかった。

◆導入の効果

- ・紙資料が減少し、紙代・印刷代・管理労務費が削減できた。

- ・資料閲覧が簡単になり、労力と時間が節約できた。
- ・データの携行により、市民への説明の際にも有効に活用できた。
- ・情報の送受信が迅速になり業務の迅速性が向上した。
- ・オンライン会議を開くことができるため、時間・場所を問わなくなった。

<所感>

愛知県長久手市・知立市議会 議会のICT化について、今回の視察は、議会ICT化に大変参考になりました。豊明市議会においても、議会のICT化を進めて行くべきと考えますが、長久手市・知立市においても、数年かかっているように、また、現在においても改善項目があるように、慎重にするべきと考えます。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の拡大により、議会が止まってしまった自治体や制限されてしまった自治体があるとも伺っています。感染症拡大や大規模災害など有事の際ほど、議会の役割は重要になります。市民の暮らしや命を守るためにも議会はいかなる場合にも止めてはなりません。そのためにも議会ICT化はスピード感を持って取り組んでいかなければならない課題であるとも感じています。

財源の問題、初期の事務の問題、理事者側の理解等の課題はありますが、まずは、全議員の理解のもと、タブレットを導入し委員会などで利用するのも第一歩ではないかと思えます。

今回、長久手・知立市議会へ多くの質問を提出させていただき、一つ一つ丁寧に答えいただきました。私自身もより理解を深めることができましたし、参加した多くの議員も考えがクリアになったと思います。今後、今回の研修の内容をいかして豊明市のICT化が前進するよう取り組んでいきたいと思えます。